

城里町の文化財さんぽ(四一)

町指定文化財(天然記念物)

「モミジ」

指定年月日/平成七年二月一日
所在地/城里町上入野
管理/所有者/個人



「もみじ」という言葉には、草木の葉が赤色や黄色に変わる状態を意味する場合と、植物名を意味する場合があります。唱歌「もみじ(紅葉)」は前者で、秋の野山が紅葉した美しい情景を歌うものです。

植物名の「モミジ」は、日本に約二五種が野生するカエデ科の植物のうちの数種を指し、オオモミジ、イロハモミジ、ヤマモ

ミジなどが該当します。

上入野の園部氏邸内にある町指定文化財の「モミジ」は、推定樹齢およそ三〇〇年、樹高約一五メートル、幹回り(目通り)三メートルの県内まれに見る巨木で、周囲には数多くの実生が生えています。かつては、手前にもう一本のモミジの大木が聳えていましたが、残念ながら平成一〇年夏の台風で倒れてしまっただけです。

樹種は、関東以西に広く分布するイロハモミジで、秋になると見事に紅葉します。

解説文/町文化財保護審議会会長小山映一
問合せ 教育委員会事務局
☎029-288-3135

俳句

野分波ぐらりと傾ぐ船料理 鯉淵 寿美恵
烏瓜兄弟喧嘩のはるかなり 今瀬 多代美
秋つばめ修道院の高空に 綿引 英子
嘴はとがりて黄色秋刀魚買ふ 中野 千賀子
夏帽子ころころ子まで転げけり 仲田 まちゑ
秋の風すくつて零す水車かな 森 静江

草むらの深き処の虫時雨 飯村 昭子
夏休み大風呂敷めく新聞紙 竹内 幸子
夕月の赤々と出て木立かな 瀬谷 博子
明け放つ田舎の暮らしいと涼し 田口 勝元
期待したどおり横綱秋の場所 岩下 金司
どんぐりや中学校は土手の上 寺門 孝子

川柳

安売りの定価末尾は8多し 富田 多蔵
五十年風雪守った女房の髭 車田 綾子
この暑さ俺も唸るぜ草刈機 飯村 孝一
子等さわぐ里山いつばい神無月 川原 清

文芸しろさと

短歌

いころ草のやさしくゆるる野徑 渡辺 千紗子
ミンミンと奏でる蝉の合唱を かな 夕飼支度をなしつつ聞けり
甲子園に緊張の面もて行進す 所 美恵子
青年の群れに凜々しきを見る 山形 式妙
タイ洞窟の13人の全員救出 奇跡の生還によるこび見守る 杉山 みちこ
くれなるに染まるこの里夕空 大森 久子
に逝く晩夏惜しみしばし佇む

孫も母になる齢かと思うとき 枝 不美
感無量なり老いにしわれは
亡き兄の残せし形見琵琶一 島 愛子
台語る人なく床の間の奥に 夕まぐれ早稲田に舞ふや白鷺
のはばたきかろく刈入れ近し 信田 育子
「愛と死を見つめて」の歌流れ来 萩谷 登喜子
て本買いくれし亡兄を偲びぬ 富田 佐智子
猛暑にいたみし秋海棠涼風 文句言ひ娘の集金を手伝いつ 富田 佐智子
いつしか我がの呆け防止にと 藺部 光子

天気良しグラントゴルフ練習す腰の痛みも我慢の遊び 富田 欽子
たのしみは旬の野菜の匂い 矢次 洋平
ぎ味わい深くかみしめるとき

